

コラム No. 0083

自己紹介

二〇二一年五月二十七日

江尻 桂子

二〇一一年度より、人間福祉学科(W科)から、児童教育学科(P科)に移籍しました、江尻桂子です。

私が茨城キリスト教学園に教員として着任したのは一九九九年の四月です。当時のシオン短期大学で、教員生活がスタートしました。新入生歓迎行事で、北先生(現在P科)と一緒に、水道水や市販のミネラルウォーターを集めてきて「利き水」実験をしたのが、良い思い出です。その後、二〇〇四年からの六年間は、大学の人間福祉学科に所属し、福祉や心理の職を目指す学生さんの教育に携わりました。良き学生、良き同僚に恵まれ、充実した日々でした。

そしてこの四月、P科に移籍しました。子どもの心の発達が専門ですので、保育や教育の職

を目指す学生さんに関われるのは嬉しいことです。以下、あらためて自己紹介をしたいと思います。少し堅苦しい内容ですが、お許し下さい。

私の専門は、発達心理学です。特に、乳幼児期・児童期の子どもたちを研究対象としています。博士論文となった研究では、〇〜一歳の赤ちゃんを対象に、言語発達の初期過程について明らかにしました。最近では、子どもへの防犯教育をテーマに、幼児・児童の危険認知の発達について研究しました。そして、幼い子どもたちがなぜ、見知らぬ人についていってしまうのか、また、どのくらいの年齢からどのような防犯教育を行うことが効果的であるのかを検討しました。

二〇一一年度は、新たに、障害児の家族支援に向けての研究が始まります。本学の研究助成金を受け、看護学部の松澤明美先生(小児看護)と共同で行うものです。この研究の成果を通して、障害のある子どもとその家族の幸せに、少しでも貢献したいと私たちは願っています。

研究活動そのものは、地味な作業の連続ですが、研究を通して、多くのお子さんやお母さん、また、保育所や幼稚園、小中学校の先生方と出

会えるのは、嬉しいことです。保育や教育の現場でいま、何が起きているのか、子どもたちや親たちはどんな問題を抱えているのか、どんな支援を必要としているのかといったことについて、直接お話を伺うことは勉強になります。

現在、四歳から小六までの三児の母であり、公私ともに、「子ども」にどっぷりつかっている毎日です。けれども、こうして十数年にわたる発達心理学を教え、また、妊娠・出産・育児を三度経験してもなお、「子どもって、こつやって成長するんだ!」、「子どもってこんなことするんだ!」、「こんなふうに考えるんだ!」と、日々、驚き、発見することばかりです。文字通り、子どもに教えられ、自分自身の知識や経験の足りなさ、そして未熟さに気づかされる毎日です。

そのようなわけで、私はいま、「先生」と呼ばれる立場にはありますが、決して奢ることなく、また、「これでいいか」と自分に満足することなく、皆さんと一緒に学びを深めていきたいと思っています。どうぞよろしく願ひ致します。

(えじり・けい)